

「お客さまと 生涯お付き合いできる 便利な写真屋さんで ありたい」

卒業アルバムの制作など、学校に関連する写真事業をメインに行っている株式会社学校写真。卒業後、本棚にしまえばなしにされがちな卒業アルバムが、コロナ禍での試行錯誤を経て、何度でも見返したくなる新しいアルバムへと進化している。

株式会社
学校写真
代表取締役社長

かぶ さき たか し
蕪崎隆志氏

写真だけに固執しない「写真屋」

——社名だけで、どんな事業を行う会社なのかわかりますね。

蕪崎社長 そうなんです。社名の通り、学校に出入りし、写真販売や出版に携わっています。昨今ではインターネット検索からお問い合わせいただくことも多く、SEO対策要らずの社名で大変助かっています（笑）。

具体的には二つの事業を行っています。一つは卒業アルバムなど子どもたちの思い出づくりを手伝う「思い出事業」。もう一つは、学校教育を行うにあたり必要不可欠なもの……例えば生徒手帳用の証明写真を撮影したり、学校案内を制作する「教育支援事業」です。

——創業からずっと、この二つの事業を行ってきたのですか？

蕪崎社長 1967年に東京都大田区の西糀谷商店街で、父が始めた町の小さな写真屋さんが弊社のスタートです。私は2004年に社長に就

任したのですが、当時は売上の7割以上が卒業アルバムで、思い出事業はほぼ1本でした。

売上が大きい卒業アルバムでしたが、実は非常にキャッシュフローが悪いのです。例えば中学1年生から撮影し始めて、卒業アルバムの代金がいただけるのは中学3年生の卒業時なので、売上が立つまで3年もかかります。そこで、より経営を安定させるべく、日銭を稼ごうというこ
とで、イベントの写真販売をはじめ、卒業文集や生徒会活動を記録する生徒会誌、学級日誌や出席簿の印刷など、さまざまな商材を増やしていき
ました。「写真屋の立場で、地域の教育機関に提供できるサービスは、写真の他にないだろうか」と、自分たちができることを徹底的に掘り下げて、そこからサービスを多様化し、卒業アルバムの売上依存率を毎年下げていったのです。

——2016年からは写真だけでなく映像をスタートさせているのも、サービスの多様化の流れですか？



二次元コードを読み取れば、制作風景（動画）やコメントをきちんと確認できる（読売新聞社提供）



子どもたちが思いを綴った黒板を撮影してアルバムに

蕪崎社長 写真や印刷のみならず、音声や動画も充分思い出づくりのお手伝いになると確信し、導入しました。弊社は、常にお客さまにとって便利な写真屋であり続けたいと考えています。故にそれがお客さまにとって良いものならば、臆せずどんどん挑戦していきたい。写真屋だからといって写真だけにこだわる必要はない、と常に社員と話しています。

すべての子どもに平等な思い出を

——コロナ禍では学校が休校になるなど、売上に影響があったのでは？

蕪崎社長 コロナ禍であつても卒業アルバムは制作しましたので、売上に大きな影響はありませんでしたが、行動制限により学校のイベントが中止になり、アルバムづくりには少なからず影響がありました。学校からも「子どもたちの思い出づくり」に力を貸してほしい」と相談され、アルバムに掲載可能な企画を考えました。その結果、従来の卒業アルバムにはなかった、新しい価値をアルバムに

加えることができました。

——具体的にはどんな企画を？

蕪崎社長 卒業する子どもたちに、寄せ書きやイラストを教室の黒板に描いてもらい（黒板アート）、それを記録に残しアルバムに載せました。黒板の寄せ書きはよく卒業式の日教室で見かけますが、それは卒業式当日しか見ることができず、そしてその日のうちにすぐ消されてしまいます。実はこれも大切な思い出。そこで、卒業前に前倒しで卒業に向けて黒板にメッセージを書いてもらい、それを記録に残してアルバムに載せました。さらに、同じ画像がウェブ上でくつきり確認できるよう二次元コードを設定。スマートフォンなどの端末で読み取ると、指先で拡大・縮小しながら、制作風景はもちろんのこと、細部に描かれたイラストやメッセージまでしっかり確認できるのはデジタルならではのですね。

——従来のアルバムのあり方にとられない、斬新なサービスですね。

蕪崎社長 さらに二次元コードを活



社員 45 名のうち約半数が営業兼カメラマン。残る半数がデザインや現像、印刷など生産部を担う。「ベテランも若手も、同じように活躍できる職場づくりをしたい」と蕪崎社長

用して、卒業式の動画が観られるようにもしました。通常、卒業アルバムは卒業式の前日もしくは当日に配布するため、式当日の写真が載せられません。でも、卒業式は学校生活を締めくくる一大イベントです。何とかアルバムに収めてあげたい。そこで、事前に二次元コードを卒業アルバムの紙面に印刷しておいて、卒業式終了後にその二次元コードを読みとると、卒業式の動画が観られるという仕組みにしました。

——それは喜ばれそうですね。

蕪崎社長 おかげさまで相当な再生回数になっています。実は、ここですごく勉強になったことがあります。納品後、あるお客さまからご意見をいただきました。「自分は難聴を患っていて、映像は確認できたけれど音声が入り聞き取れなかった。もし次につくられるときには、音声とともに字幕を加えていただけたら、多くの卒業生にとって平等で価値の高い卒業アルバムになると思います」という内容のものでした。

子どもたちを
喜ばせるための
試行錯誤が、
新しい価値を
生み出しました

社名にとられない事業拡大を

——サービスの拡充や事業展開など、今後のビジョンをお聞かせください。

蕪崎社長 お客さまとのお付き合いが卒業を節目に一回で終わらない、生涯付き合っていただけ便利な写真屋でありたいですね。例えば先ほどの二次元コード、卒業式の動画がいつ何回再生されたかを確認してみると、1年間に一人あたり6〜7回は観てくれている計算になりました。卒業後、本棚にしまいっぱなしにさ

れがちなアルバムを、子どもたちが度々開いてくれていると知り、つくつた甲斐があったと実感します。

写真や印刷に加え、デジタルも活用しながらハイブリッド型で子どもたちの人生に未長く付き合っていけるよう挑戦し続けたいですね。その第二弾として、高校を卒業した生徒さんが成人するタイミングで、高校時代の

学校写真という社名が よい意味で邪魔になるほど 多角的に事業展開したい

担任教師からの「祝成人」の温かいメッセージが観られるよう計画中で

す。2023年1月の成

人式の日までに、先生からのメッセージ動画を

制作し、配布済みの卒業

アルバムに掲載されて

いる二次元コードから

観られるようにします。

こんなふうに、学校をは

じめ卒業アルバムと子

どもたちとの関係性を

長く長く保持し続けた

いなと思っています。

——やはり事業の軸は、学校に関わることでですね。

蕪崎社長 たしかに現状、

学校に関連する売上が9割

以上を占めています。日本

全体では少子化が進んでい

ますが、「思い出づくりのお

手伝い」をさらに深掘りし、

進化させることによって、

今後まだまだ成長可能な事業だとは思っています。

ただ、コロナ禍で学校が2カ月間

休校になった際に、やはり絶対的な

安定はないと痛感しました。

そんな経緯もあって、現在は企業

の動画制作なども行っています。先

日は、「杭打ち」という建物の基礎工

事のノウハウを紹介する動画制作に

携わりました。このように、これま

で学校に関連する事業のなかで培っ

てきたノウハウを企業向けにも展開

し、近い将来「学校写真」という社

名に違和感を抱いていただけるくら

いに、多角的に成長させていきたい

と考えています。

——会社の新しい軸をつくっていく、

ということですね。

蕪崎社長 そうです。やはり学校関

連のお客さまだけに依存するのは、

経営的にリスクが大きいからです。

約20年間経営をしてきて、私がい

つも大切にしているのは「常にお客

さまに感動をお届けしたい」ということです。もちろん対価に相応しいものをお納めできれば、満足はしていただけたと思うのですが、満足を超えた、それ以上のものをお届けして初めて感動が生まれると思っています。常に感動をお届けすることを意識して行動し、成果を上げていけば、先ほどお伝えした「生涯お付き合いできる便利な写真屋さん」であることは決して夢ではなく、会社の新しい軸となる事業を立ち上げていくことも可能だと思っています。

株式会社学校写真

【本社】東京都大田区南蒲田 2-11-21 2階

【創立】1967年

【従業員数】45名

【事業内容】スクールアルバムの企画制作
／動画撮影編集／DVD・BD・CD制作／
学校案内／会社案内の企画制作／記念誌
の企画・制作など

きらばし銀行 蒲田支店会員

経理課で働く娘の瀧下すみれさんと二人で。